

# JNCC、半導体材料で攻勢

## レジスト向けなど量産

JNCCは半導体材料分野で攻勢をかける。今期から半導体プロセス材料やフォトレジスト(感光性樹脂)材料の兼座に乗り出し、高い耐熱性や透射性を持つ独自のシリコンポリマーも自動車用L ED(発光ダイオード)封止材などで顧客評価が進行中。化学品事業で培った分子設計や合成技術を活用し、成沢野で新事業展開につなげる。

JNCCに半導体材料分野の材料開発、顧客協業を強化する	
製品	現状
シリコンウエハー向け表面処理剤材料	17年度に量産開始
半導体の絶縁膜材料	17年度後半にサンプルワーク開始予定
半導体フォトレジスト材料	17年度に量産開始
鉛直構造のシリコンポリマー	LED封止材用途で一部採用。特殊コーティング剤でも顧客評価中
半導体・液晶製造装置向けクリーニングガス	一部顧客で採用

樹脂改質剤など系主力製品。JNCCは半導体材料を化学品事業の重点分野の一つと位置付けて研究開発や顧客提案に力を注ぐ。このうち、電子回路を刻んだシリコンウエハーに塗布し洗浄工程後の乾燥性を高める表面処理剤(使う材料で、従来の比で密着性などを高めた新製品を開発。半導体材料メーカー向けに、2017年度から量産)は、

JNCCはケイ素と酸素の分子がカゴ状に結びついた「ポリシリルセスキオキサン」と呼ぶ独自の構造のケイ素化合物と、反応性シリコンを組み合わせたシリコンポリマーを開発。200度以上の高耐熱性や優れた透明性、熱膨脹を受けても変形やクラックが起りにくい耐久性などが特徴。自動車用LEDやテレビのバックライト、照明などに使われるLEDは高出力化や小型化が進み、部材への耐熱性などの要求特性も高まる傾向にある。JNCCの新製品は高性能な白色LED封止材用途で16年から本格採用が始まった。LEDメーカー

ンがつぶれやすくなっている。JNCCの新製品を配合した表面処理剤は微細な凹凸に入り込んで基材と密着するため、洗浄液の脱水性が高まり、こうした不具合を防げた。

同社は半導体の全面層を覆う絶縁膜材料も17年度後半にサンプルワークを始める予定。シリコンウエハーに電子回路を刻む半導体フォトレジスト材料ではラクトン系モノマーの量産を始めた。化学品で培った合成反応を応用し、複雑な反応工程をたどる同モノマーの効率的な合成法を確立。水俣製鉄所(熊本県水俣市)の研究拠点内に専用設備を導入した。

なにも性能面を勝て顧客の視野を広げる。JNCCは半導体・液晶製造装置向けクリーニングガスの販売を手掛ける。フルケイカルボニルは主流の三フッ化窒素に比べ温暖化係数が大幅に低減される。水との化学反応で二酸化炭素やフッ酸に分解され、使用後に回収しやすい利点もある。すでに一部の顧客企業で採用されているが、環境性能をテコに半導体や液晶、LED製造装置、配管などの洗浄用途で販売拡大を目指す。

### 警告

## 蓄光シートに関する特許について

平素より弊社製品をご愛用賜り、厚く御礼申し上げます。

弊社は蓄光シートに関して、日本国特許第4130939号を所有しております。弊社が保有する特許の技術的範囲に属する蓄光シート、および蓄光テープ製品を製造・販売された事実が判明した場合は、法的手段による措置をとらせて頂く所存でありますので、特許権の侵害がないように十分ご留意くださるようご警告申し上げます。

ご警告申し上げます。

エルティアーアイ株式会社

問い合わせ先: TEL・075-11882-11515

## デュポンとのフィルム合併 インドラマに売却

帝人

し、完全子会社化している。この2社に資源を投入し高機能品製造に特化させる一方で、残りの欧米や中国の合併会社4社については帝人とデュポ

ンとのあいだで方向性指定まっていなかった。売却するのは米国とルクセンブルグ、英国、中国の合併会社4社。全株式をインドラマ・ベンチヤースの関与した会社に売却する。

4社は主に汎用ポリイステルフィルムの製造を手掛けていたが、中国製の台頭などによって価格

めめるため、それほど新及が進まない限り、ピークアウトは起こらないこととなる。またピークアウトを迎えたとしても、50年時点での石油需要は現在と同程度であり続けると見られている。

## 岐阜で能力倍増

車部品用など拡大

宇部エクスシモは11月、鮮度で高強度のオレフィン系複合繊維を増産すると発表し、岐阜工場稼働

岐阜市で設備を追加導入し、2018年1月をめると生産能力を2倍に高める。投資額は非公表。自動車部品やスポーツ